

DVD-R 紹介

<アフリカ>

* 「アフリカシリーズ」 8 巻

授業で紹介している英国人歴史家バズル・デヴィドスンが案内役のNHKのドキュメンタリー番組「アフリカシリーズ」1~8 (各 45 分)、1983 年制作。第 1 部は西洋諸国の侵略が始まる以前のおアフリカ。第 1 回「最初の光 ナイルの谷」、第 2 回「大陸に生きる」、第 3 回「王と都市」、第 4 回「黄金の交易網」。第 2 部は西洋諸国の侵略が始まった頃から 1980 年頃まで。第 5 回「侵略される大陸」、第 6 回「植民地化への争い」、第 7 回「沸き上がる独立運動」、第 8 回「植民地支配が残したもの」。奴隷貿易で暴利を得た西洋諸国がその資本で産業革命を起こし、作った製品の市場獲得のためにアフリカ争奪戦を繰り広げ、結果的には 2 つの世界大戦を引き起こしたあと、大戦後は戦略を変え、「開発」や「援助」の名のもとに、国連や世界銀行などに守られながら新しい形の支配体制（新植民地体制）を築き上げている歴史を概観している。映像化されていないので、今となっては、極めて貴重な映像。

* 「ルムンバの叫び」 115 分

<http://movie.goo.ne.jp/movies/PMVWKPD32538/index.html> goo 映画

志半ばで命を奪われたコンゴの初代首相、パトリス・ルムンバの生涯を描いた作品。2000 年仏・ベルギー・独・ハイチ。

* 「アウトブレイク」 127 分

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%82%A6%E3%83%88%E3%83%96%E3%83%AC%E3%82%A4%E3%82%AF_\(%E6%98%A0%E7%94%BB\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%82%A6%E3%83%88%E3%83%96%E3%83%AC%E3%82%A4%E3%82%AF_(%E6%98%A0%E7%94%BB)) 『ウィキペディア』

アウトブレイク (Outbreak) は 1995 年制作のアメリカ映画。アフリカからアメリカに持ち込まれた非常に致死性の高いウイルスに立ち向かう人々を描いたサスペンス。

1967 年、アフリカで内戦に参加していたアメリカ軍の部隊が原因不明のウイルス感染で全滅状態となった。軍は隠蔽のため部隊のキャンプを気化爆弾で消滅させた。そして現在、アフリカの小さな村が原因不明のウイルス感染で全滅状態となった。CDC のダニエルズ大佐の調査で、正体が判明した。

そんな折、アフリカから一匹のサルがアメリカに密輸入された。密売人のジンボは、町のペットショップに売りつける事に失敗し、やむなくサルを森に放した。その後、そのサルに関わった、ジンボや周辺の人々が原因不明のウイルス感染で次々と死亡。感染が広まったシーダークリークという町は大混乱に陥った。ダニエルズは調査を進めていく中、原因不明のウイルスの謎に迫っていく事となる。

* 「緊急救命室 ERIX6 『悪夢』 46 分、ERX1 『失われた友を求めて』 46 分」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/ER%E7%B7%8A%E6%80%A5%E6%95%91%E5%91%BD%E5%AE%A4> 『ウィキペディア』

ER 緊急救命室は、アメリカ合衆国の NBC で放送されたテレビドラマシリーズ。1994 年 9 月 9 日から 2009 年 4 月 2 日にかけて 311 エピソードが放送された。日本では NHK が BS2 で第 13 シーズンまで放送済みである。

* **IX6『悪夢』**(授業で観た分)・・・国際医療同盟の活動に参加していたコバッチュに助けを求められ、アフリカ・コンゴ共和国の難民キャンプでの医療支援活動に参加する。

* **X1『失われた友を求めて』**・・・強い意思でコンゴの激戦区に残ったコバッチュが死亡したとの連絡を受け、彼を残してきてしまった罪悪感から再びコンゴに飛び、コバッチュの生存を確認し彼をアメリカへ送った後も、自分の居場所と使命を見出しコンゴに留まる。

<南アフリカ>

* 『遠い夜明け』 157分 *Cry Freedom* (一部授業で紹介しました)

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%81%A0%E3%81%84%E5%A4%9C%E6%98%8E%E3%81%91> 『ウィキペディア』

* 「遠い夜明け」(*Cry Freedom*)は、1987年に製作・公開された映画である。監督はリチャード・アッテンボロー、出演はデンゼル・ワシントン、ケヴィン・クライン。物語は1970年代、アパルトヘイト下の南アフリカ共和国で、撮影は隣国のジンバブエで行われた。南アフリカ共和国でも公開されたが、攻撃的な白人右翼勢力によって上映劇場が爆破される事件が多発した。この映画は、ジョン・ブリーリーとドナルド・ウッズの著書を元に製作された。

* 「アモク」・「ワールドアパート」

「アモク」 114分

Yahoo!映画 <http://info.movies.yahoo.co.jp/detail?ty=dt&id=1316>

1981年、製作国・地域：モロッコ/ギニア/セネガル

解説：南アフリカ共和国のショッキングな裏側をえぐった社会派ドラマ。妹の病気を心配しヨハネスブルグを訪れた小学教師がそこで見た、人種差別の実態を綴る。

「ワールドアパート」 1987年、イギリス映画、1時間53分

eiga.com <http://eiga.com/movie/51078>

1961年の南アフリカ共和国。13歳の少女、モリーの両親は反アパルトヘイトの熱心な活動家だった。一家を取り巻く状況は次第に悪化、弁護士の父は国外へ逃亡、ジャーナリストの母もついに逮捕されてしまう。一人になったモリーの不安は募るばかり。ある日メイドの黒人エルシーの実家を訪れたモリーは、そこでアパルトヘイトの過酷な現実を目の当たりにする……。白人運動家の一家にふりかかる様々な弾圧を、多感な少女のまなざしを通して描く人間ドラマ。



* 「アフリカの蹄」前・後編各 89分 (日本語字幕)

2003年2月にNHK総合テレビで放送。

アフリカの架空の国を舞台に、人種差別と闘う日本人医師の姿を描く。架空の国になっているが、背景は南アフリカそのものである。原作は帯木蓬生の小説。

アフリカの大学病院に留学した医師の主人公は、黒人の少年を助けたことがきっかけで黒人居住地に出入りするようになる。黒人居住区では奇妙病気が流行していた。白人の極右組織が黒人追放を狙ってばらまいた天然痘であった。

南アフリカ在留の日本人でもなかなか行くことの出来ない、ミニバスの駐車場や黒人のタウンシップを見ることが出来る。ショショローザなどの、南アフリカの黒人の歌も多く

挿入されている。(http://www.geocities.co.jp/SilkRoad-Ocean/7870/movie1.htm)

授業のなかで一部を使うドキュメンタリーです。

*NHKドキュメンタリー「隔離された人々 引きさかれた大地～南ア・ジンバブエ～」
2001/2/10 (日)

アパルトヘイト後も続く人種問題、エイズ禍。ジンバブエを巡る報道というと、ハイパーインフレ、ムガベの強引な土地収用政策、といった部分ばかりが目につくが、単なる抑圧的独裁として片付けられるほどことが単純でないことは明らかだ(ジンバブエは白人と黒人が融和している成功例とされていたこともあったのだ)。ことに欧米からの報道は、土地を奪われた白人「被害者」の視点がどうしても優勢になってしまうが、本書では「奪う」側の黒人グループにも取材が行われている。

*ディンバザ

1973年頃に国連の職員が南アフリカで密かに撮影したものを反アパルトヘイトの組織を通して流したもの。大阪の反アパルトヘイト組織「こむらど」から送ってもらったもの。映像はよくないが、アフリカ人の生活がよく分る。

*メイドとマダム～アパルトヘイトの断面～1986年 Channel 4 (イギリス)

*教室の中の戦士たち(1988年5月6日、制作 イギリス ニュー・インタナショナルリスト・プロ)

南アフリカの二人の高校生が、日常生活を通じて体験した人種隔離政策の 実態をレポートする。

*アーネスト・ダルコー～地球をエイズから救う～(2006.8.13)

世界のキーパーソンに徹底インタビューし、21世紀の道しるべを提示するシリーズ。3回目は、エイズなどの感染症対策で注目される医師のアーネスト・ダルコー氏が語る。感染症の脅威に人類はどのように向き合い、乗り越えていくのか。闘いの最前線に立つダルコー氏の言葉から探る。インタビュアーは「国境なき医師団」初の日本人女性医師、貫戸朋子さん。

<アフロ・アメリカ>

*「ルーツ」*Roots* 1部6巻(日本語字幕、各約94分)2部8巻(英・日1=87分、2,5,6=42分、3,4=65分、7=137分、8=134分)英語・英語字幕版(30周年記念版)もあります。

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AB%E3%83%BC%E3%83%84_\(%E3%83%86%E3%83%AC%E3%83%93%E3%83%89%E3%83%A9%E3%83%9E\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AB%E3%83%BC%E3%83%84_(%E3%83%86%E3%83%AC%E3%83%93%E3%83%89%E3%83%A9%E3%83%9E)) 『ウィキペディア』

『ルーツ』(*Roots*)はアレックス・ヘイリー原作の小説『ルーツ』を基にした1977年制作のアメリカ合衆国のテレビドラマ(ミニシリーズ)である。

アメリカという国家の歴史上、最も暗い側面のひとつである黒人奴隷の問題を真っ正面

から描き、社会現象と言えるような大反響を巻き起こした。ドラマが放送されると、中には電話線を切る者も現れ、キジー (Kizzy) などアフリカの名前が人気になるなど、人種・民族を問わず好評を博した。

西アフリカのガンビアで生まれた黒人少年クンタ・キンテを始祖とする、親子三代の黒人奴隷の物語を描いている。続編の『ルーツ 2』では、その後（南北戦争で奴隷制が廃止されて以降）の一族の物語が描かれ、最後には原作者アレックス・ヘイリー（俳優が演じている）も登場する。

アメリカではABCが1977年4月に8日連続で放送、平均視聴率45%を記録した。日本ではテレビ朝日が1977年10月2日から8日連続で午後8時枠で放送、平均視聴率23.4%（ビデオリサーチ調べ、関東地区）を記録した。

＊「ネイティヴ・サン」1986年、日本語字幕、112分

シカゴを舞台にしたリチャード・ライトの『アメリカの息子』を映画化したもの。配布した“*How 'Bigger was Born*”のBiggerは主人公の少年の名前。

＊「アーカンソー物語」(1980) *Crisis at Central High* 日本語字幕、121分

1957年、アーカンソー州リトルロックでは、裁判所の裁定により、黒人学生数名が地元ハイスクールに入学する事が決定された。しかし、その地区の白人たちは猛烈に反対、徹底した迫害を開始する。アメリカで実際に起こった人種差別問題を捉えたエリザベス・ハッカビーの日記を基に、「刑事コロンボ」のコンビ、R・レヴィンソン&W・リンクが脚色した問題作。J・ウッドワードがハイスクールの副校長であるエリザベスに扮し、エミー賞候補となる力演を見せる。(http://www.allcinema.net/prog/show_c.php?num_c=3)

＊「アラバマ物語」(1962) *TO KILL A MOCKINGBIRD* 日本語字幕、129分

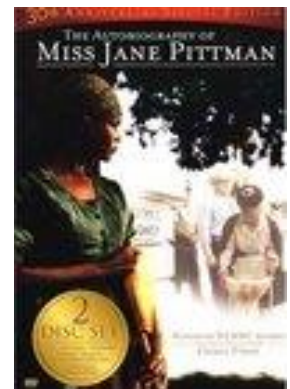
http://www.allcinema.net/prog/show_c.php?num_c=1373

ピューリッツァ賞を受賞したハーパー・リーの『ものまね鳥を殺すには』を劇作家H・フットが脚色（オスカー受賞）、後に「サンセット物語」や「レッド・ムーン」などの社会派ドラマを多く手掛ける製作パクラ＝監督マリガンとのコンビが映画化した問題作。不況の風吹く1932年、南部のアラバマ州。幼い息子と娘を抱える弁護士フィンチに、暴行事件で訴えられた黒人トムの弁護の任が下る。だが偏見根強い町の人々は黒人側に付いたフィンチに冷たく当たるのだった……。映画はフィンチの子供たちを通して、父親の苦難や町の横暴を極めて客観的に描く事に成功しており、問題意識を振りかざさず、しみりと心に染み入らせるものになっている。ペックは心強い父親像をよく出しており、アカデミーの主演男優賞に輝いた。黒人弁護のストーリーと並行して、近所に住む精神異常者ブー（R・デュヴァル）と子供たちの関係も描出されるが、これが物語の終息で融合し、映画に深い余韻を持たせている。

＊「ミス・ジェーンピットマン／ある黒人の生涯」(1974) 110分
(日本語・英語)

THE AUTOBIOGRAPHY OF MISS JANE PITMAN ビデオから録画
→DVD-R

【解説】かつて“テレビのために作られた作品の中で最高的一本”とまで謳われた米TVムービーの大作。アーネスト・J・ゲインズの原作を基に、110歳の黒人女性ジェーン・ピットマンへのインタビューを通して、南北戦争から連綿と続く黒人差別の実情を



回想形式で描く。あらゆる時代のジェーンを的確に演じきったC・タイソンと、いたずらに感情を煽る事なく淡々とドラマを見据えたJ・コーティの演出、そして110年にも渡る女の生涯を限られた時間の中で再構成した脚色は、当然のごとくその年のエミー賞に輝いた。

(http://www.allcinema.net/prog/show_c.php?num_c=9537)

* 「招かれざる客」(1967) GUESS WHO'S COMING TO DINNER

【解説】「アメリカ上陸作戦」のウィリアム・ローズのオリジナル・シナリオを、「愚か者の船」のスタンリー・クレイマーが製作・監督した。撮影は「手錠のままの脱獄」のサム・リーヴィット、音楽は「真昼の衝動」のデヴォル。出演は、これが遺作となった「おかしな、おかしな、おかしな世界」のスペンサー・トレイシー、「いつも心に太陽を」のシドニー・ポワチエ、「去年の夏突然に」のキャサリン・ヘップバーン、そのほか、キャサリン・ホートン、セシル・ケラウェイなど。



サンフランシスコ空港で飛行機から降り、タクシーに乗った若いカップルが、人目をひいた。だが、人々のぶしつけな視線など気にしないかのように、黒人青年と白人女性は親しげに語り合っていた。青年はジョン(シドニー・ポワチエ)といい、世界的に著名な医師。女性の名はジョーイ・ドレイトン(キャサリン・ホートン)。2人はハワイで知り合い、互いに愛し合う間柄となったのである。ジョーイの母クリスティ(キャサリン・ヘップバーン)は、娘の婚約者が黒人であることを知り、驚いたが、娘の嬉々とした様子に、動揺は次第に喜びに変わっていった。だが、父のマット(スペンサー・トレイシー)は、そうはいかなかった。新聞社を経営し、人種差別と闘ってきたマットも、自分の娘のこととなれば、話はちがってくるのだ。ジョンは、学界でも有数な人物であり、近くジュネーブの大学院に迎えられていることになっているということは、マットも知ってはいるのだが、黒人と白人との結婚には、想像を絶する困難がある。結婚を許しながらもマットは割り切れなかった。ジョンのジュネーブ行きの時間が迫っており、2人はその前に、互いに両親の了解を得たがっていた。息子の見送りと嫁に会うため、ジョンの両親プレンティス夫妻が空港に着き、ジョーイは出迎えたが、夫妻は嫁が白人であることを知り愕然とした。やがて、夕食の時が訪れた。ジョンとジョーイ、ドレイトン夫妻、プレンティス夫妻。そしてドレイトン夫妻の友人であるライアン神父。母親同士は結婚には賛成だったが、父親同士は反対し、とくに、マットは頑固だった。だが、そのマットも、若い2人のどんな困難にも立ち向かおうとする真剣さとその情熱に、かつての自分の青春を見、その尊さに気づき、2人の結婚を認めた。一同はそろって、夕食の席に着くのだった。(<http://movie.goo.ne.jp/movies/PMVWKP8577/index.html>)

* 「いつも心に太陽を」(1968)

現ギアナ国連大使E・R・ブレイスウエイットの自伝小説から、「キング・ラット」の原作者であり「大脱走」「サタンバグ」などの脚本家でもあるジェームズ・クラベルが製作・脚色・監督した学園もの。撮影はポール・ビーソンで、音楽はロン・グレイナーが担当。出演は「いのちの紐」のシドニー・ポワチエ、新人のクリスチャン・ロバーツ、ジュディ・ギーソン、スージー・ケンドール、ルルなど。製作総指揮にジョン・R・スローン。

マーク・サッカレイ(シドニー・ポワチエ)はもともとエンジニアなのだが、適当な勤務先もみあたらないまま、貧しい地区にある学校の教師になった。サッカレイの受持ちのクラ

スは、最終学年の10代の若者たちだが、手のつけられない連中ばかりだった。しかしサッカーレイは自分の過去の経験から、生徒たちの非常識な行為は生れながらのものではなく、その環境から生れたものであることを知っていた。サッカーレイは生徒たちに規律とか自尊心、自制心、責任感などを教えこむには、彼らを大人として扱う必要があると悟り、まず彼らに基本的な礼儀を守らせることにした。このやり方は不良生徒たちの間に動揺を与えたが、そのうち少しづつ効果をあらわしはじめ、サッカーレイは生徒たちに尊敬されるようにさえた。ところがある日、ある体育の教師が、臆病な生徒に無理にとび箱をとばせて重傷を負わせたことから、教師と生徒との間は再び険悪な状態に戻ってしまった。サッカーレイは体育の時間を代わって担当したが、少年たちの前で屈辱を与えようという魂胆のデンハム（クリスチャン・ロバーツ）にボクシングの挑戦をうけた。ところがノックアウトされたのはサッカーレイではなく、デンハムだった。だが、このことがきっかけとなってサッカーレイと生徒たちの間にまた新しい絆が生まれた。しかし、自分の方法が失敗だったと考えたサッカーレイは、ちょうど決まったラジオ会社に移ろうと思っていた。卒業のダンス・パーティーで、生徒たちの姿はガラリと変わって、立派な大人になっていた。そして生徒たちから贈られたプレゼントにそえられたカードに、「先生に、愛をこめて」のメッセージをよんだサッカーレイは、学校にとどまる決心をした。

* 「マルコム X」(1992) MALCOLM X 202分 日本語字幕、

オースパイク・リー監督が、自身も尊敬する、近代アメリカきっての偉大な思想家であり、キング牧師と並ぶ黒人解放運動のリーダー、マルコムXの生涯を描いた伝記的作品。物語は、マルコムがチンピラだった頃から始まる。若くして窃盗罪で服役し、刑務所の中でイスラム教に改宗、出所ののち彼は、イライジャ・ムハマットの下でブラック・モスLEMきっての白人を敵対視する煽動家となる。やがて組織に疑問を感じ、多人種共存の道を探ってメッカを巡礼、そしてあらゆる人種の真の友愛を悟って帰国。そしてアメリカ黒人の解放運動を今までになかった新しい理念によって大きく展開しようとした矢先の1965年2月21日、ハーレムのオーデュボン・ボールルームでの講演中に13発の銃弾を浴びて射殺されるまでの、壮絶な軌跡を克明に追う。原作は、マルコムXが著わし「ROOTS/ルーツ」のアレックス・ヘイリーがまとめた『マルコムX自伝』。D・ワシントンのパワフルな芝居とテンポの良い演出が、この長尺を一気に見せる。

(http://www.allcinema.net/prog/show_c.php?num_c=22534)

* 「キング牧師の遺産～いま アメリカ黒人社会は～」 日本語

NHK ドキュメンタリー、45分。2004年(?)

* “African Americans in the Olympics” 2007(?)年、50分、英語

オリンピックの軌跡～躍進する黒人選手たち～

* 「黒い弾丸オーエンス物語」前・後編各80分、宣伝入り。日本語のみ。

ヒットラーの前で優勝し、陸上界に数々の名を残したジェシー・オーエンスの自伝的物語。

* 「伝説の速球王サッチェルペイジ物語」1986年テレビ和歌山録画、約100分、宣伝入り。

大リーグの出来る前から野球をやった史上最強の投手と言われたサッチェルペイジの自伝的物語。日本語のみ。

* 1997～98 NBA 開幕前夜

* **1997 NBA Finals Games1~6** 約 110~120 分、英語

ジョーダンの円熟期のファイナル 6 戦分の英語の実況中継をビデオ録画し、DVD にしたもの。翌日の英字新聞があります。

* 「**NBA フィフティ・イヤーズ**」 112 分、日・英字幕

<http://www.b-players.com/i/shopping/dvd/dvd05.html>

NBA 誕生から半世紀。この 50 年間の歴史を支えてきた名選手、名コーチ、そしてその間に生まれた名場面を網羅！約 112 分の本編の中に、貴重な映像やインタビューを多数収録。ボブ・クージー、ネイト・アーチボルド、後に政治家に転身したビル・ブラッドリー、ウォルト・フレイジャー、ウィリス・リード、ディブ・コーエンズ、ダリル・ドーキンス、アイザイア・トーマス、スコッティ・ピッペン、マーブ・アルバート、ペニー・ハーダウェイ、グラント・ヒル等、豪華な顔ぶれが集結。俳優のデンゼル・ワシントンをホストに迎え、NBA の歴史を振り返る、まさに記念碑的 DVD！

* 「**真夏の夜のジャズ**」約 82 分

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%9C%9F%E5%A4%8F%E3%81%AE%E5%A4%9C%E3%81%AE%E3%82%B8%E3%83%A3%E3%82%BA> 『ウィキペディア』

(Jazz On A Summer's Day) とは、1958 年に開催された第 5 回ニューポート・ジャズ・フェスティバル (Newport Jazz Festival) を記録したアメリカのドキュメンタリー映画。1960 年公開。

ニューポート・ジャズ・フェスティバルは、1954 年に第 1 回が催された。起こしたのはプロモーターのジョージ・ウェイン (George Wein) である。



* 「**五つの銅貨**」日本語字幕、117 分

<http://homepage1.nifty.com/Kinemount-P/five-pennies.htm>

five pennies 「五つの銅貨」(1959 年) (解説) “五つの銅貨”、“ラグタイムの子守唄”、“リパブリック賛歌”、“聖者の行進”・・・変幻自在なメロディーとリズムを思い出すたび、口ずさむたびに胸の熱くなる映画です。デキシード・ジャズのホルネット奏者、レッド・ニコルズ (1905-65 年) の伝記をもとにした音楽映画の傑作。

ニコルズは、妻をボーカルに据え、ファイヴ・ペニーズを結成して成功をおさめますが、娘が小児麻痺で倒れると、ホルネットを捨て、音楽を捨てます。彼はカムバックできるのでしょうか？

ダニー・ケイがニコルズを演じ、ホルネット演奏 (録音) は、ニコルズ本人によるもの。ニコルズはこの映画の 6 年後に世を去りました。『ベニー・グッドマン物語』と同じく、本人の生前に作られた伝記映画でもあります。

“五つの銅貨”と“ラグタイムの子守唄”は、ダニー・ケイ夫人のシルヴィア・ファイン作曲だそうです。ニコルズとその愛娘とサッチモが酒場で同時に別の歌を唄うところはすごかったですね。コード進行が同じなので、違和感なく唄えるのだそうです。

ラジオ録音の失態シーンなど、ダニー・ケイはそのコメディアンぶりをいかんなく発揮しました。サッチモとの掛け合いは実に見事で、聴いていて壮快でしたね。サッチモの前でサッチモの真似をする可笑しさ！

ケイ自身の芸風ゆえでしょうか、自己破滅型、暴走型の性格描写は、ニコルズ本人の性格なのかどうか、僕は知りません。しかし、他の追隨を許さず、自己流を貫き通す描写があるだけに、彼がホルネットを捨てる場面は見ていて辛いものがありました。

それ以上に、造船所で働く場面、娘の誕生パーティーの場面は、夢を捨てた男の悲しさが伝わってきて、身につまされます。そんな風に人物描写と音楽を丁寧に積み重ねて、そうして最後のシーンに行きつくワケですから、ラストシーンは涙なくして見られないんですね。

ニコルズの妻を演じたバーバラ・ベル・ゲデスは、名前の音感とは違って（笑）、はつらつとした健康的な親しみやすさが魅力でした。『めまい』でステュアートを見守る元婚約者を演じた女優さんでもあります。歌はアイリーン・ウィルソンによる吹き替えなのだそうです、バーバラ自身の歌声と聞き違うほどピッタリの歌声でした。

この映画の魅力のひとつに色彩、照明があります。ちょっとやり過ぎの感はなきにしもあらず、ですが、最初のタイトルバックから目を楽しませてくれる撮影でした。ジャズのムード、バーバラのブロンドの美しさ、それら全てが手に取るように伝わるカラーのうれしさ、たのしさを溢れさせた色使い、光のあて方だったと思います。

* 「アメージングレースの魂」・「アメリカ・心の歌『アメージング・レース』のルーツ」
NHK ドキュメンタリー、日本語、各 45 分。2007年

* 「ジャズの巨人たち ルイ・アームストロング」・「ジャズの巨人たち ビリー・ホリデイ」
NHK ドキュメンタリー。

* 「We Are the World」 日本語字幕、53 分

http://ja.wikipedia.org/wiki/We_Are_The_World 『ウィキペディア』

一部授業でもみたハリウッドで録音・作成されたもの。イギリスで活躍するミュージシャン、ボブ・ゲルドフが提唱したバンド・エイドの成功に触発されてアフリカの飢餓と貧困層を解消する目的で作られたキャンペーンソングで、作詞作曲はマイケル・ジャクソンとライオネル・リッチー、プロデュースはクインシー・ジョーンズ。

1985 年当時、アメリカ国内だけでシングル 400 万枚、アルバム 300 万枚を売り上げた。最終的にはアメリカだけで 750 万枚のシングルが売れ、シングルとアルバム、ビデオの合計で 6300 万ドルの収入となり、すべての印税はチャリティとして寄付された。ビルボード (Billboard) 誌では、1985 年 4 月 13 日に週間ランキング第 1 位を獲得。1985 年ビルボード誌年間ランキングでは、第 20 位。

そのほかドキュメンタリーも制作され、2004 年には 20 周年記念 DVD として「We Are The World THE STORY BEHIND THE SONG」がリリースされた。

<エイズ・その他>

* 「BS 世界のドキュメンタリー エイズの時代」 *The Age of AIDS* 4 巻

1 会「未知のウィルスとの闘い」、2 回「広がる差別 遅れる対応」、3 回「カクテル療法の登場」、4 回「克服への道」

* 「人類の健康を守るか」

20 世紀、医学の飛躍的進歩により先進国では寿命が伸び、公衆衛生が大幅に改善された。しかし、南北格差、貧困、内戦などの事情により、ここ数年、途上国では公衆衛生のレベルが逆に著しく低下した。未知のウイルスも続々と出現し、ジェット時代の今、短期間で世界中にウイルスが拡散する危険性が指摘されている。

番組では、20 世紀、公衆衛生の発展に寄与した人々の足跡を再現ドラマでたどった後、各分野で今、格闘を続ける第一線の医師、科学者へ密着。グローバル・ヘルスについて地球規模

で取り組むことの大切さを訴える。

- (1) 「ワクチンと抗生物質を求めて」 (Disease Warriors & Rise of the Superbugs)
- (2) 「貧しさと豊かさがもたらす病」 (Back to the Basics)
- (3) 「エイズ・鳥インフルエンザ対策」 (How Safe Are We?)

* 「ドクター」

* 「赤ひげ」

山本周五郎原作の『赤ひげ診療譚』を基に、巨匠・黒澤明監督が三船敏郎、加山雄三主演で映画化したヒューマニズム溢れる人情ドラマ。江戸時代の小石川養生所を舞台に、そこを訪れる庶民の人生模様と通称赤ひげと呼ばれる所長と青年医師の心の交流を描く。長崎で和蘭陀医学を学んだ青年・保本登は、医師見習いとして小石川養生所に住み込むことになる。養生所の貧乏くささとひげを生やし無骨な所長・赤ひげに好感を持ってない保本は養生所の禁を犯して破門されることさえ望んでいた。しかし、赤ひげの診断と医療技術の確かさを知り、また彼を頼る貧乏な人々の姿に次第に心を動かされていくのだった……。

* 「天国と地獄」

エド・マクベインの原作を巨匠・黒澤明監督が映画化した傑作サスペンス。優秀な知能犯に刑事たちが挑む。ナショナル・シューズの権藤専務は、自分の息子と間違えられて運転手の息子が誘拐され、身代金3千万円を要求される。苦悩の末、権藤は運転手のために全財産を投げ出して3千万円を用意する。無事子どもは取り戻したが、犯人は巧みに金を奪い逃走してしまい、権藤自身は会社を追われてしまう……。巧妙なプロットもさることながら、登場人物たちの心理描写が秀逸で人間ドラマとしての完成度も非常に高い。

* 「沈黙」

遠藤周作の小説「沈黙」を、「ディパーテッド」「タクシードライバー」の巨匠マーティン・スコセッシが映画化したヒューマンドラマ。キリシタンの弾圧が行われていた江戸初期の日本に渡ってきたポルトガル人宣教師の目を通し、人間にとって大切なものか、人間の弱さとは何かを描き出した。17世紀、キリスト教が禁じられた日本で棄教したとされる師の真相を確かめるため、日本を目指す若き宣教師のロドリゴとガルベ。2人は旅の途上のマカオで出会ったキチジローという日本人を案内役に、やがて長崎へとたどり着き、厳しい弾圧を受けながら自らの信仰心と向き合っていく。スコセッシが1988年に原作を読んで以来、28年をかけて映画化にこぎつけた念願の企画で、主人公ロドリゴ役を「アメイジング・スパイダーマン」のアンドリュー・ガーフィールドが演じた。そのほか「シンドラーのリスト」のリアム・ニーソン、「スター・ウォーズ フォースの覚醒」のアダム・ドライバーらが共演。キチジロー役の窪塚洋介をはじめ、浅野忠信、イッセー尾形、塚本晋也、小松菜奈、加瀬亮、笈田ヨシといった日本人キャストが出演する。

* 「檜山節考」

深沢七郎の同名小説を木下恵介が脚色・監督し映画化。大量のセットを駆使し、舞台（演劇）のような世界観を構築している。1983年には今村昌平によってリメイクされ、同作はカンヌ国際映画祭でグランプリを受賞した。70歳になると人減らしのため檜山で姥捨を行う村があった。69歳になるおりんは、息子の辰平と孫たちを世話しながら、辰平の後妻を探していた。辰平は去年、妻に先立たれていたのだ。檜山祭りの日、辰平は隣の村から妻

を迎えることができた。おりんは檜山へ行く準備を始めるが、自分の歯が立派であることを恥じ、石臼にぶつけて折ってしまう。そして正月の数日前に突然「明日山へ行く」と言い出すのだった。

*「戦後 50 年その時日本は 第 6 回 大学紛争 東大全共闘・26 年後の証言」

1968 年の世界の状況は、ベトナム戦争（1965 年からアメリカが武力介入）、パリの「5 月革命」（学生と警官隊が衝突し、ゼネストが全仏に拡大）、ソ連のチェコ侵攻（「プラハの春」の圧殺）、キング牧師やロバート・ケネディ上院議員の暗殺など、東西対立、南北対立、体制内での世代対立・階級対立・人種対立が激しさを増していた。他方、日本国内の状況は、高度経済成長の成果（世界第二位の GNP）を享受しつつ、そのひずみ（公害、受験戦争、働き過ぎなど）が顕在化し、社会体制へ向けての学生（若者）たちの「異議申立て」は先進諸国で同時多発的に、あるいは連鎖反应的に起こっていた。戦後の社会体制の中に生まれ、その中で育った世代が、学校経歴の終点である大学に入学したときに、そして職業経歴の開始に向けて動き始めたときに、自分たちを産み育てた社会体制に向かって「異議あり！」の声を上げたのである。

*「エトロフ遙かなり」

開戦前夜。真珠湾攻撃の機密情報をめぐって、米海軍諜報部の一員として日本に送り込まれた日系アメリカ人が展開するサスペンス歴史アクション。終戦の日になんだ特集番組として放送されたドラマ。戦争にほんろうされる主人公の男女と、二人の周囲の人々が織りなす愛情と悲劇を描いた。昭和 16 年日米開戦前夜。果たして真珠湾攻撃は実行されるのか。日本海軍の動向を探るため、日系二世で米国のスパイ・賢一郎は、単身エトロフ島に潜入する。島で暮らす娘・ゆきは、賢一郎の正体を知らないまま、恋に落ちる。しかし、賢一郎には、日本の憲兵の追手が迫っていた……。

*「怒りの葡萄」

原作はピューリッツァ賞を受賞した、スタインベックの同名小説。殺人容疑で入獄していた主人公トム・ジョードは仮釈放で 4 年ぶりに故郷オクラホマの農場に戻るが、小作人として働いていた一家は既に凶作の土地を逃れさったあとだった。叔父の家で家族と再会した彼は、みなで遙かカリフォルニアに行き、職を求める。そして、桃もぎで雇われた農場で賃金カットに反対したストが起き、首謀者ケイシー（J・キャラダイン）を殺した男をトムは殴り殺してしまう。一家で国営キャンプに潜んだが、彼を追う保安官が姿を現わし、トムはまた一人逃亡の旅に出る……。再会を信じ、彼を送り出す母の逞しい言葉で映画は締めくくられ、やるせない余韻を残す。母を演じた J・ダーウェルはアカデミー助演賞を受けた。また、トムに扮した H・フォンダの“もの静かに不正に向かって闘う男”というパブリック・イメージはここで完成されたと言ってもいいだろう。30 年代半ばの中西部の大飢饉を題材に、あからさまにニューディール政策の側に立って、アメリカ農民の詩を謳う、フォードの反骨のリアリズム。いつものユーモアは微塵もなく、真の逆境で生きる困難を切々と訴えている。フォードはオスカー監督賞に。

<allcinema>

たま